

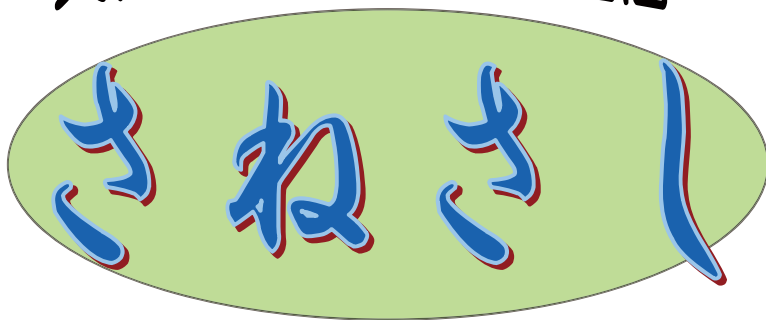


発行

平成27年7月11日

相模原市文化財調査・普及員

広報グループ

文化庁指定
文化財愛護
シンボルマーク両手のひらと日本
建築伝統の組物を
イメージしたもの

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

嗚呼天国地獄、同期の桜

相模原市内には「市の木」であるケヤキをはじめ、地域や神社仏閣のシンボルのような樹木が多いように思います。杉、まき ひのき えのき 榎、桜、銀杏、そして桜の木など。樹木も実は立派な文化財ではないでしょうか。

そんな木々の中で、とても「気になる木」があります。それは、旧陸軍通信学校（現在の相模女子大学や大野南中学校、谷口台小学校などの校内）に植えられている桜の木々です。旧陸軍通信学校は昭和14年5月に移転開校されましたので、開校当初に植えられた桜の樹齢は76年以上になっているはずで、児童・生徒・学生たちを四季折々見守りながら、戦時中から戦後の激動の時代をずっと見てきました。

相模女子大学や大野南中学校内にある桜の根元は、土や草で覆われているのが多く、概して養生よく植栽されています。特に相模女子大学の桜の木々の中には、「百年桜」と称されて大切にされているものがあります。樹枝周りは立ち入りが禁止されて、根の周りは土と草に覆われてフカフカです。ですから、その樹形も下の写真のように実に立派で、毎年見事



相模女子大学の「百年桜」

目 次

- ・ 嗚呼天国地獄、同期の桜
- ・ 津久井光明寺を訪ねて
- ・ 装飾古墳の世界 とらづか 虎塚古墳の紹介と文化伝搬の一考察
- ・ 三ヶ木遺跡は200年遡るか
- 津久井の弥生時代 -
ごそんびつおなり
- ・ 御尊枢御成道を歩いて
- ・ 田名新宿～上溝周辺探訪



に咲き誇っています。キャンパスの女王様のように、桜の木にとってはまさに天国ではないでしょうか。

一方で上の写真のような悲しい状態にある桜の木もあります。根元周りは、細かい砂利土が敷き詰められていてコチコチです。

古来日本人は樹木を大切にしてきました。「ご神木」と崇められてきた木々さえあります。世界に誇れる日本人の美風ではないでしょうか。

「嗚呼、それなのに、それなのに」

（東南班 山田）

津久井 光明寺を訪ねて

2月19日から4月19日まで、神奈川県立金沢文庫で「知られざる夢窓疎石ゆかりの禅院 2つの宝積寺^{ほうしやくじ}を訪ねて」が開催されました。相模原市緑区青山にある金徳山光明寺は、夢窓疎石を開山とする臨済宗建長寺派の古刹で、その前身であった宝積寺の中世文書や絵画をいまに伝えているといわれます。

金沢文庫の会場に入ると、光明寺が所蔵する地藏菩薩坐像（南北朝時代）や夢窓疎石像（南北朝時代）弁才天図（室町時代）、絵本淡彩十六羅漢図（県指定重要文化財）、足利義輝公帖（弘治二年、1556）などの文化財が一堂に展示され、建長寺四大重鎮のひとつとして反映した光明寺の姿を知ることができました。

そのような古刹が市内にあることを知らされ、西部班では、光明寺にお邪魔させていただくことになりました。

客殿玄関にある、県下では珍しいなまこ左官の職人

の手による雪をかぶった松と朝日を大胆に描いた^{こてえ}鍍絵（漆喰を用いて描くレリーフ）や三十三観音、そしてご本尊の延命地藏願王菩薩などを、ご住職の懇切丁寧な説明でじっくり拝見することができ、時空を超えた世界にしばし誘われたひとときになりました。

津久井観音霊場32番札所でもある同寺を訪ねてみてはいかがでしょうか。子年、午年の5月頃には御開帳もあるそうです。（西部班 永山）



金徳山
光明寺

とらづか 装飾古墳の世界 虎塚古墳の紹介と文化伝搬の一考察

装飾古墳と呼ばれるものは、5世紀から7世紀にかけて造られ、全国で約657基あります。内、九州地方に約56%の367基です。埋葬施設である古墳の竪穴式石室／横穴式石室の壁面、あるいは石棺・石障^{へきしょう}・隔障^{へきしょう}・石屋形に、彩色または線刻・彫刻により図文を施しているものを言います。例えば、円文・三角文・菱形文^{きょしもん}・鋸歯文^{きょしもん}・珠文^{しゅもん}・直弧文等の幾何学模様、楯^{ゆき}・靱^{ゆき}・弓・大刀^{とうす}・刀子^{とうす}・短甲などの武具武器や馬・鳥・魚・蛙・龍・葉^{さしば}・舟^{ふね}・鏡^{かがみ}・翳^{さしば}・車輪状文^{くるまわらびてもん}・家^{いえ}・蕨手文^{わらびてもん}・花^{はな}・四神^{ししん}・人物などを配しています。分布は宮崎から宮城までで、九州が多く、ついで太平洋側の関東北部から東北南部、相模湾周辺部、及び日本海側の山陰地方と偏って点在しています。近畿や岡山に少ないのは意外です。

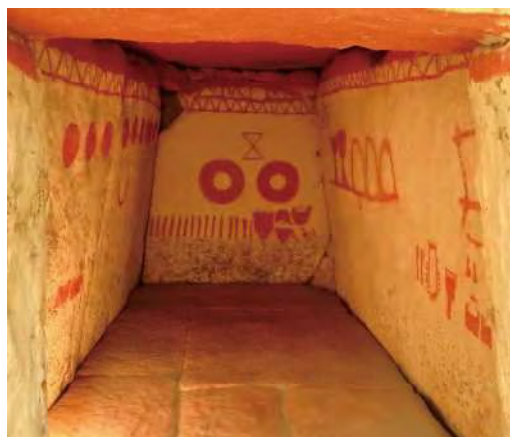
国史跡虎塚古墳は茨城県ひたちなか市にあり、7世紀前半に築造された全長56.5mの前方後円墳です。後円部横穴式石室の奥壁と側壁には、白色粘土を下塗りした上にベンガラで図文が描かれています。奥壁には連続三角文・環状文・武器及び武具が描かれています。

国史跡チブサン古墳は熊本県山鹿市^{やまが}にあり、6世紀前半に築造された全長44mの前方後円墳です。後円部

の横穴式石室に石屋形が置かれ、ベンガラの赤や白・黒色で彩色した図文で飾られています。正面に描かれた二つの同心円が乳房に見え、訛ってチブサンと呼ばれ乳の神様として信仰されました。

チブサン古墳と虎塚古墳には図文にベンガラの赤色を用いた円文・三角文など類似性があります。赤色は魔除けや再生の意味もあるのでは。類似性があれば、文化伝搬や技術者の移動があったはずで、九州から黒潮に乗って太平洋沿いに北上し茨城地域に行く太平洋ルートが考えられます。

（田名向原遺跡案内・普及事業実行委員会 駿河）



ひたちなか
市教育委員
会所蔵
虎塚古墳
(レプリカ)
を撮影

三ケ木遺跡は 200 年遡るか? —津久井の弥生時代—

2003 年国立歴史民俗博物館の研究グループは、放射性炭素の年代測定により、弥生時代は従来の開始年代から 500 年ほど遡り紀元前 10 世紀であることを発表し大きな波紋を呼びました。これによると、津久井の三ケ木遺跡も弥生時代中期前葉であるところから百年単位で遡ることが推定されます。この頃の遺跡は、まだ縄文時代の晩期の様相を色濃く残した生活と在地型の三ケ木式土器の時代です。つまり米の栽培だけでなく、狩猟採集も合わせて行っていたと考えられます。

弥生時代といえば灌漑施設を伴う水田農法や、青銅器鉄器、方形周溝墓などセットの遺構や遺物が想像されますが、まだその前段階にありました。遺跡立地も台地上にあり、低地や微高地ではなく縄文的立地があります。一般的には、弥生時代の遺跡が山側の高地にあることは不思議なことです。すでに弥生時代中期北九州などでは、戦いが始まる社会に入っていました、

この頃の三ケ木はそのような緊張した時代ではありませんでした。

その後、神奈川では東海地方など西との交流が盛んとなり移住者も増加します。中期中葉には関東に先駆けて小田原の微高地に中里遺跡が東海や瀬戸内の土器型式を有し、水稻耕作を行う弥生本来の大遺跡として現れ、その後低地の遺跡が増加します。後期前半には、東海三遠の寄道式土器の遺跡がそのまま移転したような環濠集落の神崎遺跡が相模川の支流目久尻川沿いに出現します。

津久井の弥生時代はまだ十分明らかになっていませんが、本格的弥生文化直前の三ケ木遺跡は、南関東で古い段階の三ケ木式土器（県指定重要文化財）という個性的な型式をもつ記念すべき場所なのです。三ケ木式土器の出土状況から、出土した場所は再葬墓ではないとも言われています。

（津久井班 高木）

こそんひつおなり

御尊柩御成道歩いて

3月24日、南部班では、徳川家康公の柩が通った道のうち、町田の木曾の一里塚から、麻溝の一里塚までを歩きました。御尊柩御成道の道筋は、明治43年の地図と現在の地図を重ね合わせて推測してみました。

木曾一里塚を目指して

古淵駅に集合、総勢9名の参加でした。駅西側にある踏切を渡り、御神柩御成道の道筋をたどり、木曾の一里塚を目指しました。龍像寺坂の上り口あたりに大野北公民館の「古淵一本松跡」の説明板があり、左奥に入ったところに、「大山道と当麻山道の分かれ道」の古い道標がありました。同じ道でも、昔は「御尊柩御成道、大山道、磯部道、府中道、木曾道、奥州古道、道者みち」と呼び方は色々でした。

家康の柩が通った古道は社有地の中に残っていました！



境川を渡り、新町田街道を通り過ぎたところに、木曾の一里塚がありました。また、塚の上には、なぜか御岳山の小祠がありました。

麻溝の一里塚を目指して

古淵駅へもどり、南部班の班員が資料から推定した麻溝の一里塚を目指しました。

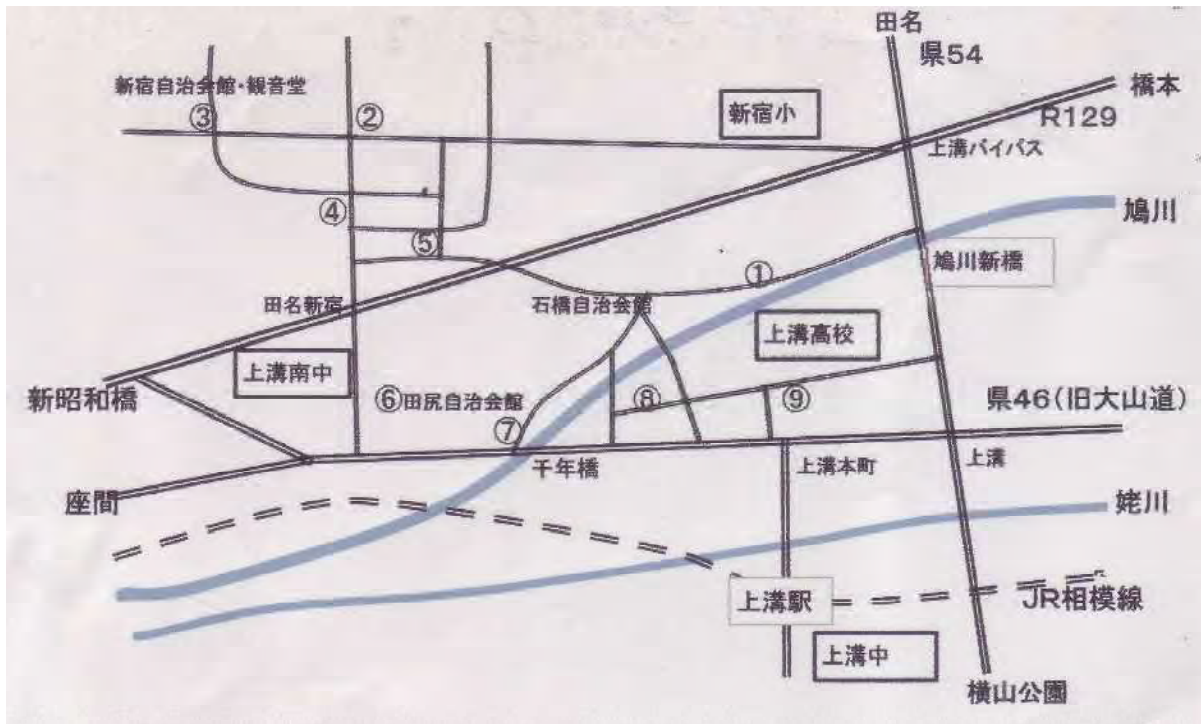
16号線を渡って、イオンの向いの狭い路地を斜めに入り、大野台小学校に向かいます。大野台小学校脇門の横には、「道者みち」の道標が立っていて、その緑道に進みます。先の緑道の突きあたりは、オルガノ研究所の裏門です。

オルガノ研究所担当者立ち会いのもとに敷地内を見せてもらえました。緑道から裏門の林、通路と続く道は古道の形跡を感じさせるものでした。古道の存在を示すものか不明ですが、「神奈川縣」と彫られた古い石柱もありました。

木もれびの森入口の信号に戻り、三和物流センターのフェンス沿いに緑道を麻溝台に向かい、御尊柩御成道の道筋を感じる探訪を終えました。

（南部班 樽林）

田名新宿～上溝周辺探訪



田名と上溝の隣接地域 徒歩 2.5 時間の探訪コースを紹介します。

- ①**上溝石橋の庚申塔** 文化 14 年（1817）造立です。
- ②**田名新宿地蔵様と石仏** 地蔵様は元禄 8 年（1695）に村人によって奉建されました。安政 4 年（1857）の道祖神、文化 12 年（1815）の地神塔、庚申塔、不動尊などが個人の方の一角にあります。
- ③**新宿自治会館石仏** 自治会館の隣は観音堂です。文化 12 年（1815）造立の県下でも貴重な二十六夜塔、天明 4 年（1784）造立の六地蔵、道祖神、庚申塔（「棚」の文字が刻まれている）などが集められています。
- ④**稻荷社** この稻荷社は田名新宿集落で管理している神社です。寛政 4 年（1792）の石灯籠が 2 基あり、一基は「稻荷大明神永代常夜」、他の一基は「秋葉大権現」です。社は平成 2 年（1990）に建替えられました。
- ⑤**渡辺玄泰の墓** 玄泰は当地に生れた医師で、弘化 4 年（1847）飢饉と重税に苦しむ人々を救おうと門訴計画しましたが、密告により、捉えられ牢屋で亡くなったと言われています。玄泰の子孫弘庵も田名村村長として地域の発展に貢献されました。
- ⑥**千年橋石仏** 寛政 7 年（1795）に不動明王像が造立され、「上の不動」と呼ばれました。他に元文 2 年（1737）の庚申塔、観音講供養塔、金峯山蔵王大権現供養塔などが祀られています。
- ⑦**無格社神明社旧跡** 天正年間（1573～1591）の頃、一族の守護神として奉祀されて、万延元年（1860）社殿を再建、明治 13 年（1880）に田尻部落の氏神として祭礼が行われていましたが、明治 40 年（1907）大火災で焼失し、翌年内務省令により亀ヶ池八幡社に合祀して、ここに記念碑を建立したものです。道祖神は昭和 10 年（1935）に道路改修記念として建立されました。
- ⑧**元町観音堂** 宝暦 9 年（1759）白瀧山高巖寺として開山され行基菩薩作と伝えられる正観世音菩薩が祀られています。武相観音霊場 30 番札所で、卯年にご開帳の卯年観音とも呼ばれ、現在も 10 月の縁日には「卯月会」による御詠歌の奉納が行われています。境内には、徳本念仏塔（市登録有形民俗文化財）もあります。
- ⑨**市場開設 50 周年記念碑** 明治 3 年（1870）上溝に毎月 3 と 7 のつく日に生糸・繭の流通と農蚕具や生活必需品の供給を目的の市（溝市）が立って賑わいました。大正 8 年（1919）に市場開設 50 周年記念式典が行われ、記念碑を造立しました。ここには、明治 26 年（1893）の芭蕉句碑（市登録有形民俗文化財）や大鷲神社・成田不動尊が祀られ、酉の市やだるま市が現在も開かれています。（西部班 尾梶）

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371